

TAKE FREE

ご自由にお取りください

INFORMATION FROM POPOLA KASUKABE

POPOLA

ぽぽらだより

2021.3

特集号

Let's try collaboration!!

KYODO VOL. 02

発行元 春日部市市民活動センター
(指定管理者：(株)コンベンションリンケージ)

まちのことを、はじめる場所。

「ぽぽらだより」は、春日部市市民活動センター（ぽぽら春日部）が発行するまちづくりや市民活動を広めるためのフリーペーパー（広報誌）です。ぽぽら春日部はまちの課題に取り組み、市民の暮らしに新たな価値を生む公益的な活動を応援する施設です。地域のための活動をしている人、始めたい人がつながっていく場所でもあります。わたしたちが暮らしている、まちのことをはじめませんか。



春日部でつながれ！

春日部 # 協働
野口農園 # 農福連携



農 × 福

ノウフク連携

「農福連携」という言葉を聞いたことはありますか？地域の農業は労働力不足に悩んでいます。障がい者や高齢者は生きがいを持って働く場所を探しています。「働く場」としての農業と「働き手」としての障がい者をつなぐことで、農業と福祉それぞれの課題に取り組み、豊かな地域コミュニティを育む活動として、「農福連携」に近年注目が集まっています。

春日部でも、そんな農福連携の取り組みをごく自然に実践している場所がありました。地域のさまざまな「協働」の姿を紹介するぽぽらだより特集号では、今回、地域とのつながりから農福連携やレンタルキッチン、地域製品の開発等、次々とアイデアを生み出している野口農園の協働事例を紹介します。

『皆さんが来て くれて楽しいし、 恩返しをしたい』

野口農園では平日ほぼ毎日、さまざまな障がいのある人たちが園内で農作業などに従事しています。和気あいあいと仕事に取り組んでいるのは春日部駅周辺に事業所をかまえる就労継続支援A型作業所・未来工房の利用者の皆さんで、昨年春から一部の農地を借りて自分たちでジャガイモや青葉、胡麻などを育てています。



障がい者の働く場を探して、未来工房所長の村山陽一さんが知人の紹介で野口農園を訪れたことがきっかけとなり、場と人手を補い合う農福連携の取り組みが始まりました。

「まずはいろいろと試してみて利用者の皆さんにあった野菜（づくり）を選びながら育てていきたい」と話す野口文夫さん（写真右）。障がいには個人差があるので、実際は一人ひとりのできること、得意な作業を分担して、やりがいを持って取り組んでもらえるように工夫しているとのこと。また、冬場の農作業が少ないときは薪割りや農場の片付けなどにも取り組んでくれるため、人手が不足しが

ちな農家にとっては農場に活気をもたらす大きな助けになっており、お互いを支え合う関係が築けています。

収穫した作物は、現在春日部駅西口の事業所の前で利用者の皆さんが自ら販売していますが、今年は農園内で育てた作物の収穫体験や量り売りをして地域の皆さんに楽しんでもらう計画もあるそうです。協働することによってこれまで単独ではできなかったアイデアが実現し、農業から福祉、観光、地域づくりへとつながる新たな可能性が広がっています。

また、野口農園では、福祉との連携だけではなく、地域の市民活動団体や商店などとのつながりから他にもさまざまな



取り組みをしています。

無農薬無肥料で育てた春日部在来の大豆で作られた地場産コロッケ「豆コロ」（春日部フードセレクション認定）は、市民活動団体「∞一粒会」の活動を☑



通じて、地域の食文化の発信の一役を担っていますし、最近では農園の一部にレンタルキッチンをつくり、コロナ禍で苦しむ市内の飲食店を応援する取り組みも始めています。

地域とのつながりが協働の機会を生み、協働することによって地域の新たな魅力が生まれています。

協働のポイント

懐深くおおらかに構えて始める。
協働の土台はお互いの感謝の気持ち。

春日部市市民活動センター（ぼぼら春日部）

年中無休（年末年始を除く） 9:00～21:30

TEL 048-731-3550 FAX 048-734-1605

〒344-8578 埼玉県春日部市南1-1-7 ふれあいキューブ4階

<http://kasukabe.genki365.net/>

<https://www.facebook.com/popolakasukabe/>

